



まなび舎



卒業に向けて

副校長 阿出川千賀子

3年生の卒業式まで、あと50日となりました。学校では、卒業や卒業後の進路に向けた学習や学習が進み、まとめの授業に取り組んでいます。進路については、生徒それぞれの状況やペースに応じて、担任や進路指導担当だけでなく教職員一丸となり、進路先や関係機関の皆様とも連携しながら進めています。

年末から、清掃技能検定や喫茶・接客サービス検定、物流技能競技会があり、自分の力を確認する機会に挑戦する生徒がいきました。これまで一緒に努力してきたからこそ、結果を分かちあえ、讃え合っている様子に心が温まりました。

また、何名かの3年生の生徒と、採用選考等に向けた面接練習をさせていただくことができました。緊張した表情で入室し、一つ一つの質問に一生懸命に考え応えようとしている姿に、好感がもてました。普段話をしたことがない人と話をすることは、勇気のいることですが、本番では自分らしさを伝え、これまでに身に付けてきた力を発揮してほしいと強く感じました。後日、面接の様子や結果について、安堵と自信に満ちた表情で報告をいただき、ともに喜べる瞬間はやはり嬉しいものでした。

1月24日には、PTA進路部の共催で進路講演会「卒業生保護者のお話を聞く会」が開催されました。卒業生の保護者が本校在学中に感じたこと、卒業してから気付いたことなどを、直接在校生の保護者の皆様にお話ししてくださいました。参加された在校生の保護者の皆様が、大きくうなづきながらお話を聞かれているのが印象的でした。個別指導計画や個別の教育支援計画を今も大切に保管され、活用していただくことがあるとのこと、教職員にとっても励みになりました。

卒業はゴールではありません。そして、卒業したときの進路先が全てではありません。人生のゴールを迎えるまで、それぞれにとって豊かでステキな人生になるよう、日々成長していきましょう。途中で休んだり、立ち止まって考えたりすることがあってよいと思います。あたり前の日常に感謝し、健康に気を付け、その時、その場で、それぞれができることに取り組むことが大事なのだと、コロナ禍、能登半島地震を経験した今、改め強く感じます。

卒業までの50日、学校生活のラストスパートとなります。一日一日を大切にしていきたいと思います。



普通科生徒会選挙について

担当 梶原 朝子

1月15日(月)に、普通科3年生8名からなる選挙管理委員が生徒全員に選挙の告示を行いました。令和6年度の生徒会役員にどんな役割があるか、どんな資質が求められるかなど、話をよく聞いて、1・2年生の生徒それぞれが立候補について考える様子が見られました。また、港特別支援学校の全生徒が生徒会の会員で、選挙で1票ずつ投票できることも説明がありました。現在は立候補者それぞれのポスターが完成し、選挙運動が行われています。2月2日(金)に立会演説会を経て投票が行われます。立候補者も有権者も「生徒みんなのために」「こんな学校にしたい」という気持ちを学校生活の中で持ち続け、活動する中で体現していくことができます。そして、自分たちが活動に参加する楽しさややりがい、考えて選んだ代表が願いを実現してくれる経験を、将来に生かすことができればと願っています。

職能開発科生徒会選挙について

担当 千葉 裕輔

2月2日(金)に職能開発科生徒会選挙を行います。当日は港区選挙管理委員事務局の方や、明るい選挙推進協議会芝浦港南地区の委員の方々に御協力をいただき、選挙についての学習をした後で役員投票を行います。これに先立って、投票の流れや投票所でのマナー、投票先を自分で決めるなど、選挙の流れについて大切なことを学びました。満18歳になると、代表を選挙で選ぶことのできる権利を得ることや、代表として活動できる権利である被選挙権についても学びました。

立会演説会、投票を終え、投票により誕生する新たな生徒会役員の今後の活躍に期待しています。また、年末から準備をした選挙管理委員の生徒の皆さんのおかげで、スムーズに選挙を行うことができそうです。